

文章題テスト・説明／論説(3)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

虫をとらえて食べる植物があるのを知っていますか。どうして虫を食べるのでしょうか。タンポポは、根からすいあげた水や養分、それから葉で作られた糖分を栄養にして成長し、花をさかせて種を実らせます。タンポポだけではなく、わたしたちの身の回りにある植物のほとんどは、水分や養分の多いコえた土地に生えていますから、あまり苦労しなくても生活できます。

ところが、広い地球には、めったに雨のふらない砂漠があります。また雨はふっても、養分の少ないやせ地があります。そんなところにも植物は育っています。このような住みにくいところで育つ植物は、どのようなしくみで生活しているのでしょうか。

砂漠で育つサボテンを調べてみましょう。サボテンが芽生えるときや、若い茎のときには葉がついていますが、やがて落ちてしまいます。これは葉の気孔から、水分が外に出るのをフセぐためです。

茎は太っていて、切ってみると、中に水を貯えた細胞の集まりが見えます。このようにして、葉を落とし、茎に水分を貯えていれば、日照り続きの砂漠でも、なんとか生きていくことができるのです。

いっぽう、ところで育つ生物はどうでしょう。土からの養分吸収はあてになりません。そこでまったく新しい方法つまり、空を飛ぶ虫や、水中を泳ぎまわるプランクトンをチョクセツ捕まえて食べるということを自然と身につけたのです。これが食虫植物です。

食虫植物は、葉をつくり変えて捕虫器にしました。とらえた虫を分解する消化液まで用意しました。そんなこととはつゆ知らず、虫たちは、美しい花や、おもしろい形の葉や、あまい蜜にさそわれて近づいてきます。そして餌食になってしまうのです。厳しい環境での生活の工夫が食虫植物を生んだといえます。(清水清「食虫植物のひみつ」より)

(注) 気孔——葉の表皮などにあいている小さな穴



1 線ア「オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。」
 ア それぞれの訓は「さかーえる」「やしなう」

ア えいよう

イ 肥(えた)

ウ 音は「ポウ」、予防など。筆順も確認しよう。

エ 音は「チヨ」、貯金など。

ウ 防(ぐ)

エ たくわ(えた)

オ 直接

2 線「住みにくいところ」として、どのようなどころがあげられていますか。文中から二つ、それぞれ三字以内で書きぬきなさい。

砂漠

やせ地

前の行の「そんなところ」も同じ。水分の少ないところと養分の少ないところの例としてあげられている。

3 線2「サボテン」について説明した次の文のうち、本文の内容と合うものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。「サボテン」のしくみは、第四・五段落で説明されている。

ア サボテンは、水の放出をふせぐために葉はあっても気孔がない。

イ サボテンは、タンポポと同様に生活に苦勞することがあまりない。

ウ サボテンの太い茎には、日照りに備えて水がためられている。

エ サボテンには、虫を分解するための消化液を持つものもある。

4 線「」に当てはまる言葉として最も適当なものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 水分も養分も豊富にある

イ 水分はあっても養分の少ない

ウ 養分はあっても水分の少ない

エ 養分も水分も少ない

「いっぽう」という書き出しに着目。前の段落では水分の少ない「砂漠」について、この段落からは養分の少ない「やせ地」についての説明になっている。

5 線3「そんなこととはつゆ知らず、……近づいてきます。」とありますが、この文の主語を書きぬきなさい。

虫たちは

「虫たちは」に対応する述語は「きます」。

6 線「どうして虫を食べるのでしょうか」とありますが、この問いかけに対する筆者の考えを、次のようにまとめました。線「」に当てはまる説明を、「土」という言葉を使って、十五字以内で書きなさい。

生きていくのに必要な

第六段落の内容をまとめるとよい。また、最後の一文も同じ内容をまとめて言いかえたもので、この文章の主題である。

例 養分を土から吸収できない

ため、虫をとらえて食べることを自然と身につけた。

